

美里町



関根神楽

幕末（一説によると1856）、栗原市栗駒沼倉出身の当時17歳の三浦善太郎という青年が、関根村の佐々木比古内宅に奉公した際、南部神楽を伝えたのが関根神楽のはじまりと伝わっています。関根神楽は南部系統を受け継ぎ、リズムカルな調子や勇壮な舞とともに、軍記物等に見られる多くの演目が特色です。



戦後一時廃れましたが、昭和30年代に保存会によって復興され、関根地区を中心とした北浦地域の方々によって継承されてきました。

昭和53年3月3日には小牛田町無形文化財に指定され、当時は「岩戸開き」「那須与一」などが上演されてきました。その後、地元の北浦小学校において、体験学習の一環として少年少女神楽教室と神楽クラブ活動が実施されるようになり、現在まで引き継がれています。

平成27年9月には約30年振りに地元の鹿島神社に奉納されるなど、近年は再び注目を浴びています。